



美袋駅前み なき 駅前の浸水しん すい

ふだんは、おだやかな流れを見せる高梁川ですが、ひとたび台風の襲来や大雨が降ると、その表情は一変します。明治時代には、大きな洪水が6件発生しています。

大正14年に秦地区と井尻野(漣井)から下流の堤防の改修が完成した後は、大きな洪水は発生していません。



井尻野地区内にある「水害の水位の碑」。明治26年10月の洪水時に、右の中央のカギの部分まで浸水したことを今に伝えるもの。周囲の民家と比較すると1階の軒下付近まで、浸水したことになる

◆ 洪水の歴史 ◆

江戸時代は漣井から清音村までの高梁川の堤防は、現在のものとは比較にならないほど弱小なものでした。そのため、洪水時のたびに大きな被害が出ていました。

洪水の記録として『常盤村誌』の水害史には、明治時代以降も高梁川は数年おきにはん濫を繰り返していたとあります。

特に、明治26年10月の暴風雨洪水は県下一円に大きな被害をもたらしました。総社市付近では、高梁川の堤防が両岸で約5kmに渡って決壊。流されたり浸水したりした家は数千戸、死者も150人を超える未曾有の被害でした。前年の明治25年にも大きな被害が出ており、そのことが被害を大きなものにしました。

近年では、昭和47年7月に大きな水害がありました。宍粟では国道180号が浸水したり、崩壊したりしました。



豊かな実りは秋の吉備平野を黄金色にします

高梁川が作った肥よくな大地と、その豊かな流れは、吉備平野の農業を大きく発展させました。現在、稲作をはじめ、マスカットやモモ、ナスなど多くの農作物が栽培されています。

また、農業に水は欠かせないものです。農業用水として総社市東部や岡山市西部、山手村、

清音村などの水田(約5000ha)をうるおす漣井十二カ郷用水(長さ18km)は有名です。



漣井十二カ郷用水の高梁川合同堰



マスカット・オブ・アレキサンドリアの収穫



高梁川ではカワガニやアユの漁が行われている



漣井十二カ郷用水を作ったとされる妹尾兼康をまつる兼康神社